

2020年6月11日
NHK広報局

6月会長定例記者会見

Q. “ウィズ コロナ” の中でのNHKの対応について

A. (前田会長) 新型コロナウイルスの感染拡大防止のための緊急事態宣言の解除を受けまして、NHKでは外部の出演者にお越しいただく形での収録や外出を伴うロケ、中継、収録を順次再開しております。ドラマや公開収録番組につきましても、具体的な運用ルールをまとめたマニュアルを整備して、収録再開に向けた調整を進めております。大河ドラマ『麒麟がくる』に加え、連続テレビ小説『おちょやん』も、6月から収録を再開することになりました。

常時同時配信と見逃し番組配信のサービス、NHKプラスにつきましては、新型コロナウイルス関連のニュースや番組をよく見ていただき、5月末までに、およそ73万件の利用登録のお申し込みがございました。引き続き、見逃し番組配信のプレイリストを充実させるなど、視聴者の皆さまに役立つ情報をお届けしてまいりたいと思っております。

一方、例年お伝えしてまいりました、夏の全国高校野球選手権大会や全国高校総体などのスポーツ大会、さまざまなイベントが中止される事態となっております。こうした中で、NHKらしい放送、サービスを、どのように提供していくのか、地域の実情などを踏まえながら、検討を進めております。

「NHKのだ自慢」などの公開番組やイベントも、安心して参加できる環境が整ってから再開できるものと考えており、会場に観客を集めた形で実施できるまでには、もう少し時間がかかるとみております。

営業の現場では、感染防止対策を徹底した上で、6月から受信契約に関するご案内の投函など、お客さまと対面しない形での営業活動を再開いたしました。今後は各自治体の要請や、感染状況などを踏まえ、段階的に訪問活動を再開したいと考えております。

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの社会や生活を大きく変え、これからの放送・サービスのあり方を見つめ直す機会になりました。リモート制作技術を駆使した番組の開発など、これからのウィズ

コロナ、アフターコロナを見据えた経験を積むことができたと考えております。

時差出勤や在宅勤務の利用が進むなど、職員やスタッフの働き方も変化いたしました。緊急事態宣言が発出されていた期間は、放送センターへの入館者が普段に比べて6割程度減ったと聞いております。新型コロナウイルスの感染拡大は、新しい生活様式を促すとともに、働き方改革を加速させることとなりました。

緊急事態宣言は解除されましたが、新型コロナウイルスの脅威は、未だ消え去っておりません。いわゆる、3つの密を作らない対策を基本として、感染防止を図りながら、引き続き視聴者、国民の皆さまに、真に役立つ放送サービスを提供してまいりたいと思います。

Q. 年末の「紅白歌合戦」や「思い出のメロディー」など、観客を入れた番組の収録はどうなるのか。

A. (会長) 年末の「紅白」ですけども、年末がどんな状況になるか、ちょっとわかりませんので、例年どおりとはいえないと思いますが、私は今年も「紅白」をお届けできるように、いろいろ検討していきたいと思っております。詳しい内容が決まり次第、お知らせをいたします。

「思い出のメロディー」など、無観客・生放送の大型番組がいろいろございますが、どのような形で番組を放送できるかを検討しております。できる限り情報を提供したいんですけども、相手がウイルスなものですから、もうちょっとお時間をいただきたいと思います。

Q. 新型コロナウイルスの営業業績への影響について

A. (会長) 新型コロナウイルスの感染拡大によりまして、多くの事業所で、事業運営に影響が出ておりまして、3月末に設置いたしました相談窓口には、休業や廃業に伴う解約や、支払いの延伸のお申し出が多数寄せられております。また、一般世帯のお客さまからも、支払いの延伸などの相談をいただいております。

NHKでも政府による緊急事態宣言や各地方自治体の外出自粛の要請等を踏まえ、全国の地域におきまして、営業現場の訪問活動を自粛いたしました。

こうしたことから、2020年度の第1期末、5月末までの営業業績は、前年度末と比べますと、契約総数は8万5000件、衛星契約は2万8000件の大幅な減少となりました。増減の割合で見ますと、契約総数がマイナス0.2%、衛星契約はマイナス0.1%、年間計

画に対する進捗率で見ますと、契約総数がマイナス21.6%、衛星契約はマイナス5.1%という、大変厳しい結果となっております。今後につきましては、感染拡大防止に取り組みながら、感染拡大の状況や、それに伴う社会状況の変化に、適切に対応した営業活動を実施してまいります。

Q. 新型コロナウイルスの営業への影響は、東日本大震災やリーマンショックの時と比べると、どのような状況なのか。

A. (会長) 第1期の業績が、契約総数、衛星契約ともに減少になったのは、初めてのことでございます。それだけ影響が大きかったということだと思います。

Q. 4月は進学や就職で営業業績は伸びる時期と言われているが、第1期の契約総数マイナス21.6%という数字をどう受け止めているか。

A. やっぱりコロナの影響がかなり深刻に出ていまして、たとえば、休業したり、廃業したりする方は、もう1度改めて起業するというのは大変難しいので、その分だけ土台が減るということになります。そういう意味で、NHKの受信料という意味では、構造的なところに直撃する感じになるのではないかと、ちょっと心配をしております。

Q. 新型コロナウイルスの影響がある中で、予算編成をどのように考えているのか。

A. (会長) 私も会長に就任して、最初に申し上げたことですがけれども、NHKは、ややコスト意識が弱いところありまして、受信料につきましても、これまで比較的順調に、80何%というところまで上がってきたんですけれども、このままでずっと伸びるということはありません、私は思っています、むしろ下がるんじゃないかということをお大変懸念しています。その中で、我々とすれば、あらゆるコストを見直すということをお、今、現にやっております、予算の作り方を含めて、いろんな工夫が必要だと思っています。

Q. ラジオ第1の年間特番「みんなでひきこもりラジオ」について

A. (会長) NHKでは、年々深刻化しております、ひきこもりの実態を取材するとともに、この社会問題に対しまして、公共メディアとして、どう向き合うかを考えてまいりました。その取り組みの1つとして、NHKラジオ第1では、今年度、1年間の継続的な企画として、引きこもりの当事者と一緒につくる番組、「みんなでひきこもりラジオ」を放送することにいたしました。7月には2夜連続で特番を放送

いたします。詳しくは担当者から説明いたします。

(担当者) この番組は、ラジオらしいアプローチで、引きこもりの当事者と一緒につくるという番組を目指しています。引きこもりの人たちも、支援者も、一緒に参加して、寄り添い合いながら、時にはつながったり、向き合いながら話ができる。その場をラジオでつくりたいと思い、7月に放送を予定していましたが、5月7日に、第1回目の番組を、緊急事態宣言下、2時間の生放送でお送りしました。出演者もリスナーも、電話によるリモート出演で、番組にはひきこもりの当事者、悩んでいる人たちから、非常に多くの参加がありました。たとえば、家族との距離感で悩んでいるとか、ひきこもりからやっと抜け出せると思っていたのに、コロナの影響で、ひきこもりにまた逆戻りしてしまったというような、当事者からのメッセージが寄せられています。電話で出演していただいた新潟県50代女性のエリポンさんという方は、うつ病で新型コロナ以前よりひきこもり中ということで、以前の職場に戻ろうとしても、前のように仕事ができるのかどうか、次の仕事を探そうとしてもどうすればいいのか、非常に悩んでいらっしやいました。ただ、最近は、趣味の手芸に熱中することで、少し気分転換をすることができたということで、お便りをいただきました。外に出られない中で、ラジオらしいアプローチで、自宅から声を届けることができたということで、私たちも感動したことを憶えております。

次回の放送は、7月23日と24日の2夜連続で、10時5分から55分までの放送になります。リクエストや投稿などを受け付けると同時に、ひきこもりの方と支援者の悩みや思いをリスナー同士で考える時間にしていきたいと思っております。

Q. 7月のBS8K番組について

A. (会長) 今、コンサートや舞台を観ることができない日々が続いております。7月のBS8Kでは、20世紀の名演奏を現代に再現した番組を放送いたします。ご家庭でも、まるで当時のコンサートホールにタイムスリップしたかのような感覚で、演奏を堪能できる番組の新作であります。詳しくは担当者からお伝えします。

(担当者) 今年1月にBS8Kで放送し、ご好評をいただきました「いまよみがえる伝説の名演奏・名舞台」の第2弾を制作いたしました。このオリジナルのネガフィルムは冷凍保存されていましたが、一度解凍したら二度と冷凍できないんです。今回の8K化のために、フ

イルムの所有者は、NHKに対して特別にフィルムの解凍を許可してくれました。

新型コロナウイルスは世界に未曾有の影響を与えています。旅行やスポーツ観戦、コンサートや美術館巡りなど、様々な活動に制限・制約がある中で、BS8Kでは、圧倒的な臨場感で、世界の絶景や国内の名所、そして、文化や歴史的な価値をお届けしてまいります。

Q. 4月に行われた役員人事についての所見は。

A. (会長) 役員人事について、個別にコメントはしないのが私の主義なんですが、見てわかるような人事をしたつもりであります。一言で言うと、過去の方には申し訳ないんですけど、私、老齡なんですけど、基本的に若返りを図ったということが1つでございます。それから、NHKは縦型の組織が非常に強くて、役員もたくさんいるんですけど、それぞれ担当の業務を持って、その責任者でもあるという建て付けになっているんですけど、私は、基本的に、役員の仕事は、担当業務はもちろんありますが、担当の仕事5割で、残りの5割はNHK全体のことを考えて欲しいと、そういう仕事の割り振りをお願いしています。担当の上に乗っかるだけでしたら、むしろ、いないほうがよいと、邪魔なだけですので、意思決定を早くするということと、NHK全体のことを考えるというのが役員の仕事だと思っております。そういう意味で、それに相応しい方々を適材適所で配置をいたしました。もし、配置がおかしいとか間違っているということがあれば、ご指摘いただければ、すぐ変更いたします。

Q. 6月7日放送の「これでわかった！世界のいま」で使われた動画について謝罪のコメントを出したが、所見は。

A. (会長) 今回の放送につきましては、多くの方からご批判・ご意見をいただいております。私は、この重いご意見を受け止めまして、掲載を取り止めたり、放送で謝罪するという対応をまず行いました。また、不快な思いをされた方にはお詫びをしたいと思います。今回の件を受けまして、ただちに、放送に関わる全ての部局に注意喚起を行った上、このようなことが繰り返されないように、もう1回、自分で番組をチェックして、何が問題かというのをはっきり認識した上で、再発しないように、特に、報道機関として当たり前ですけど、人権を尊重するというを徹底していきたいと思っております。

Q. なぜ、このような動画が作られたと考えているか。

A. (会長) 私が聞いている限りでは、アニメを使ってわかりやすく解説もしたいということで作ったということなんですけど、その中の一部だけが極めて不適切だったと。全体を見ればわかるという、そういう説明も聞きましたが、部分的に切り取ってもおかしいものはおかしいので、そういうことがないようにするしかない。それでお詫びしました。なぜと言われると、もうちょっと勉強してもらいたいとしか言いようがないです。

Q. NHKがそのような動画を作ったと、各国のメディアが取り上げていたが。

A. (会長) 私どもの報道スタンスがそういうことではないんですけども、そういう意味では、恥ずかしい話です。

Q. この問題を一過性のものと捉えないで、改めて人権意識や放送倫理について見直すつもりはないのか。

A. (会長) 基本的な教育のところについては、一過性のものではないと思います、ちゃんとしっかり教育するということだと思います。たくさんの方がいますので、機会あるごとにしっかり教育をすると、理屈をいくら言っても始まりませんので、教育をして、こういうことだということをわかしてもらわないと。作っている方に悪気がなくても、結果として、そういうことが起こったら、何やっているかのと思われまますので、教育については徹底してやりたいと思っております。

Q. かんぽ生命の不正販売をめぐる問題に関して、NHKの情報公開・個人情報保護審議委員会が、経営委員会の議事録等を開示すべきという答申を出したが、受け止めは。

A. (会長) 経営委員会の検討課題でございまして、私がコメントをするのは適切ではございませんが、こういう答申が出ておりますので、経営委員会はこの趣旨を尊重していただきたいと思っております。

Q. 答申では、経営委員会が言っていた、開示によって円滑な議論が阻害されるという理由は肯定できないとしているが、この点については、どう考えているか。

A. (会長) 経営委員会の中の議論のやり方について、私がここでコメントするのは控えますが、私は執行部側ですので、経営委員会の中で、十分検討していただけるものと思っております。

Q. 会長直属のプロジェクトのねらいは。

A. (会長) 5月11日付で会長直属の特命チームを発令いたしました。NHKにはいろいろな課題がございまして、内部で何年にもわたって、いろいろな検討をしてきているものが実はたくさんあります。いろいろなものがあるんですけども、それを実行に移さないと、単なる提言ですと、そのまま埋もれてしまいますので、実現するためにはどうしたらよいかということを検討するためのチームを発令いたしました。テーマを10個ぐらい選んでもらったので、その10個のテーマを、ついこの前、私も中身を見ましたが、それを実際に実行に移すためのフィジビリティをやって欲しいと。理想論ばかり言っても何も進みませんので、具体的にそれをやったら、どういうことになるかというのを、これから2か月ぐらいかけて、しっかりとやって欲しいと、そういう注文をつけております。できれば、年内ぐらいにすべてをかたちにして、改革の柱の1つに織り込んでいきたいと。ちょうど、次期中期経営計画もやっている最中ですので、中期経営計画の中で取り上げたほうがよいものはそこに入れるし、ただちにやったほうがよいのは、そのまま今年度からやると、そういう覚悟でやっております。

Q. 総務省の公共放送の在り方に関する検討分科会で、日本新聞協会から受信料規模を2000億円削減できるのではないかという意見が出されたが、受け止めは。

A. (会長) 2000億円近く減額できる可能性があるというご意見でしたけれども、どうやったらできるかを教えていただければ、私、すぐ採用しますが、中身がわからないものですから、どうやって落とすのか、率直に申し上げて、わかりません。

もちろん、そのようなご意見とは関わりなく、私どもは私どもで独自にどうやったらコストが下がるかというのを徹底的に議論していますので、基本的には、NHKそのものがスリムで強靱な報道機関になればと思っております。皆さんからのご批判を受けないように、一生懸命やりたいと思っております。

(担当者) 新聞協会の見解では、2000億円のうち、営業経費の700億円すべてが削減できるかのようなものだったと思いますが、口座振替手数料とか、システム運用経費などといった固定的な費用も含まれていますので、ただちに全額削減できるようなものではな

いと考えております。また、ここ数年の事業支出の増加分は、国のロードマップを踏まえた4K8K放送の実施に合わせた投資や、国際放送の強化、さらに東京オリンピック・パラリンピックに向けた対応など、社会的な要請や公共放送として果たすべき使命を踏まえて、放送の充実強化を行ってきたものであります。その一方で、毎年度、既存業務見直しで100億円規模の経費削減に取り組んできたことは、分科会の中でもお話しさせていただいております。

Q. 日本高野連から選抜大会の代替試合として交流試合開催の発表があったが、NHKとして放送する可能性はあるのか。

A. (会長) 今、現場で検討していると思いますけど、私は、こういう特殊な環境下で、春の選抜がなくなり、夏の甲子園もなくなった。こういう本当に異常な事態で、高校生の方々の夢が全く実現しない形になったんですけど、高野連の方が夏にこういう交流試合をやられるということなので、中継できればよいなど。それから、こういう特殊な機会でもありますので、私どものNHKプラスも、やっとスタートしたばかりですけど、そこでも見られるような状況になればよいなど。もちろん、私が勝手に決めるわけにはいかないんですけど、そういう願望を持っております。

Q. 次期中期経営計画について、どのようなビジョンを持っているのか。

A. (会長) 私、外から来ましたので、NHKの予算のたて方とか、今、全部見直しているんですけど、やや違和感があるところがございまして、歴史的に、放送波として、地上波があつて、それから、衛星波があつて、波をだんだん増やしていった、予算がそれに付いているという、そういう構造になっているんです。私は、こういう放送波をベースにして予算化してやるというのは、ちょっと違うんじゃないかという率直な感覚がありまして、基本的には番組じゃないのと。ですから、番組のジャンル管理をちゃんとすると、そこから入るのではないかというのが、私の最初の問題意識であります。

放送波ごとにやりますと、いろいろな放送波で重複したり、いろいろなものがごちゃ混ぜになってしまいますので、そういうことがないように、視聴される方は放送波で見るのではなくて番組で見たいものですので、当たり前のことですけど、そちらから入り直して、それぞれ、その番組は本当にNHKの番組として評価されているのか、それと

も、評価されていないのかと、評価されていなくても価値があるのかないのかとか。私は視聴率にこだわらないと、最初に申し上げたんですけど、視聴率だけで追っかけますとおかしくなりますので、期待されるものがありますので、視聴率が取れなくても、よい番組というのはあると思います。科学番組とかですね、そういうのはお金もかかるんですけども、しっかりやるものはやると。要するに、番組の質のところメスを入れたいなと思っております。当然、それをベースにして、あとは、どの回路を使って放送するかというのは別の話ですので、放送の仕方も工夫が要るのではないかなと思っております。

NHKの職員から見ると、何か変なことを突然言い出したって、皆、困っていると思うんですけど、私から見ますと、ごく普通のことを言っているつもりなんですけど。NHKの職員、皆、真面目ですから、今までこうだったからと頑張るんで、それだけじゃまずいのではないかと。民放の方、いろいろな改善をされているのに、NHKだけ改善しない。頑張っているだけではまずいのではないかと、普通になろうよということで、今、やっている最中でございますので、もうちょっとお時間をいただきたいと思っております。

(以上)